

2020年 豊岡市賀詞交換会 議長新年あいさつ

明けましておめでとうございます。

昨年は、令和という新しい時代が始まりました。そして今日、令和2年新元号での初めてのお正月です。この1年が穏やかで何事もなく終わっていくことを願っております。そして皆さんそれぞれが心豊かに1年を過ごされることを願っております。

昨日、但東消防団の出初式が執り行われました。市長も出席をされましたけれども、その後の祝賀会において、お一人の方から言葉をいただいております。

「大変嬉しいことがこの正月にあった」。12日にある成人式に出席される二十歳の子を持つお父さんでした。その二十歳の子が、プレ同窓会を正月にし、13人の同級生が集まったということでした。お父さんも交えて話をされたそうですけれども、13人のうち12人が大学卒業後、すぐに豊岡に帰ってくると言われ、それを聞いたお父さんは大変喜んだということでありました。13人目の一人は、海外に行って活躍をしたいということでこちらには帰ってこないということでした。しかし、学校を卒業してすぐに豊岡に帰ってきたい、帰ってくるという若者が増えているということに対して、私も大変喜んでおります。

少しばかり詳しく聞きました。「帰ってきてじゃあ何をするんだ」ということを聞きましたら、一つは市役所に就職するという、もう一つは教員となって豊岡の教育者として活躍をしたいと言っているそうです。一人は、現在豊岡市内で建築業をされている方の息子さんで、親を継ぐために帰ってくると言っていました。帰ってくる事情は、それぞれであると感じましたけれども、やはり公務員志向というのが地方にはあるかと思えます。それ以外の若い子たちが豊岡に帰って職に就くという思いを持っていただきたいなど。そのためには、この豊岡市あるいは周辺に帰ってきたいと思える企業が発展しなければならないということを強く感じました。市も、いろいろな施策によって事業支援をしておりますけれども、まだまだやっていかなければならないと感じました。

今年は子年です。十二支で言うと、最初の干支です。そして、干支で言いますと、還暦を迎える方は、生まれ変わる年です。子年、何事も新しいことを出発させるには、大変良い年だと言われております。また、以前から続けていたこ

とも、改めてその内容を考え直して、違う道、違う目線でやっていくことを始めた方がよい年だと思います。そういった意味では、先ほど市長がおっしゃった事で、新たな内容でやっていかなければならない事がたくさんあると感じています。そのためには、皆さんの日々のご支援とご協力が非常に大切になってくると思いますので、今後ともこの1年、よろしくをお願いします。

もう一つだけ言わせていただきます。子年と言うことでネズミにちなんで、“窮鼠（きゅうそ）猫を噛む”という慣用句があります。その意味は、皆さん言わずともご存知と思います。似通った意味の四文字熟語で”禽困覆車（きんこんふくしゃ）”というものがあります。両方とも、強い者に対して弱い者が反逆をしていく、反撃をしていく、という意味があります。良い言葉になるかどうかわかりませんが、弱い者が窮地となれば力を出して、何でもやる、やっていけるという諺でもあります。国が強いとは言いませんけれども、弱い地方です。瀕死の状態になっている、後がないという気持ちになってやっていくということが大切かなと思っております。このような気概を持って、この1年を過ごせばいいと思っております。皆さんもどうぞご協力の程、よろしくをお願いします。

本年もどうぞよろしくをお願いします。